

今井 勲さん

近 藤 保 (化学教室)

日立製作所中央技術研究所(日立中研)に居られた今井さんに初めてお会いしたのは、7年以上も前のことになる。そのころ、化学教室の金工室には松田正太郎さんという方が在任しておられ、定年が間近であったので、後任を捜す必要があった。何かの事情で私がおその任を引き受けることになり、出来るだけ優秀な人をということでもかなり広範囲にわたって心当りを捜したが、適当な人がなかなか見つからなかった。このような事態はある程度予想はしていたものの、優秀な技術者を捜すことがいかに大変であるかを思い知らされた。民間企業では技術の優劣がおその企業の死命を制するという認識のもとに、技術者を育てて高給をもって遇している。一方、官公庁ではこのような技術者が必ずしも優遇されてはいないので、待遇面でも民間との落差が非常に大きい。幸いにも、当時理学部長であった田丸謙二先生の御尽力で、当時工学部長であった千々岩先生を介して、日立中研の今井さんを紹介して頂いた。日立の人事教育部の方と一緒に日立中研で秘かに今井さんとお会いした。その後いろいろな経緯があったが、今井さんは文部技官(53年9月31日付)になられ、化学教室の金工室で仕事をして下さることになった。

今井さんの技術は非常に優れており、日立製作所で技能オリンピック選手の指導教官を4年間つとめられた。また、国家検定機械技能士一級の資格を持っておられる。このような方を化学教室の金工室にお迎えできたことは、われわれにとって大変有難いことであった。昔の化学教室には、ガラス細工の装置が多かったが、最近の化学、とくに物理化学の研究では、大きな真空装置など金属工作を必要とする部分が極めて多い。今井さんがかなり精度の高い装置や、高度な技術を要する器

具を作って下さったお蔭で、われわれの研究は大いに発展し、その装置がなければ思いもよらなかったような成果もたくさん得られた。

われわれ研究者が新しい実験を計画し、装置を手探りで試作する過程では、実際に工作する人と緊密に連係しながら進めてゆく必要がある。今井さんは日立中研で多くの研究者と長年そのような経験を積んで来られたので、その点でも理学部の技官として最適の人であった。また今井さんの几帳面な性格を反映して、金工室は常に整理整頓され、仕事が非常に能率的であるには大変感心させられた。

今井さんが化学教室で過ぎたのは、わずかに7年という短い時期であったが、われわれが受けた恩恵はこのように極めて大きかった。義理堅く、さっぱりした人柄なので、今井さんのファンも多かったのではないかと思う。ここに今井さんのお仕事に敬意を表すとともに、いろいろとお世話になったことに心から感謝している。

